

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473200937	事業の開始年月日	平成16年5月1日
		指定年月日	平成16年5月1日
法人名	有限会社横浜ソフトケアサービスセンター		
事業所名	フレンジィ都岡		
所在地	(〒241-0031) 横浜市旭区今宿西町296		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年12月22日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者とのコミュニケーションを大事にして距離感を近くし、心の声に耳を傾けその人らしい生活をして頂けるよう心掛けています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年2月19日	評価機関 評価決定日	令和6年4月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、相鉄線「鶴ヶ峰」駅からバスに乗り、「農協前」より徒歩10分程に位置しています。自然の多い住宅街にあり、木造二階建ての2ユニットのグループホームです。ユニットごとの独立した棟になっています。散歩や色々な催事が出来る広い中庭があります。

<優れている点>

「自分の家族を入りたいグループホーム」を理念とし、その実現の為に十箇条の行動基準を設けています。管理者は、利用者と職員・職員同士の相性を見極めたシフト作成をしています。職員の意見を大事にし、職員の定着率が良く、安定した職場環境となっています。自治会・ケアプラザ・施設のオーナー・民生委員が参加する運営推進会議を核にして、町内会行事への参加や子どもボランティアとの交流・他事業所との交換研修など、地域との付き合いを活発に行っています。外国人技能実習生に向けた介護福祉士資格取得の支援や、職員一人ひとりの長所を伸ばし、質の高いケアの実践に励んでいます。

<工夫点>

介護職員処遇改善交付金を、働きに応じて半期ごとに給付しています。パート職員のモチベーションアップに繋がっています。外国人職員による母国の料理を作ったり、民族衣装を着るなどホームの中で多国籍を感じる事ができるようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	フレンジィ都岡
ユニット名	1号館

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 2024/4/23	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	リネンを共有し実践につなげています。	4つの理念を集約し「自分の家族を入れたいグループホーム」を目標にしています。管理者は職員と同じ目線に立ち、率直な話し合いを大切にしながら、家庭的な事業所作りを目指しています。職員の理解を得る為に、話し合いだけでなく手紙でのやり取りもしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	気候がいい日は散歩などをし地域とのつながりをもてるよう支援しています。	自治会・民生委員・ケアプラザと交流しています。得た情報から、和太鼓など色々なボランティアの来訪に繋がっています。地域の小学生によるフラダンスチームの踊りの発表も受けています。子ども達と握手する機会もあり、涙を流しながら喜んでる利用者もいました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方からの入居の相談などで、認知症の方の理解や支援の方法をお話しして、入居に繋がらなくても、いつでも相談に乗りますとお伝えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、当ホームにて委員の方々に利用者の近況やホームの雰囲気など報告し、意見を頂きサービスの向上に活かしています。	家族・自治会・民生委員・ケアプラザ・建物オーナーが参加しています。事業所の日常の様子や事故、行事などの報告をし、意見や感想を聴いています。横浜市指導課に確認の上、身体拘束・虐待防止・感染症対策会議も同日に開催しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいます。	旭区役所には手続きなどで度々足を運んでいます。その際にはケアサービスについての現状をお伝えし相談に乗って頂き良きアドバイスなどを頂く事もあり、協力関係を築き上げていると思います。	介護保険の更新・区分変更手続きでは旭区役所の高齢障害支援課の介護保険担当と、生活保護関係では生活支援課と連携しています。運営推進会議にも参加を得ている民生委員と、直接連絡し、助言や情報をもらえるような連携が取れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては定期的に委員会の開催をし実際の事例を元に意見を頂きサービスに繋げています。職員研修も定期的に行い、身体拘束に繋がらないようケアに取り組んでいます。	身体拘束防止委員会は、運営推進会議と一体で年に4回開催しています。3つのロックの中で、気付かず発してしまうスピーチロックは「ちょっと待ってください」を「1分だけ待ってください」などの言い換えることを意識しています。言い替えの工夫については、委員会の中で話し合いをしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待にあたる行為についても職員間で話し学ぶ機会は日常的にあり、虐待が見過ごされることがないように努めています。	虐待防止委員会は運営推進会議と一体で開催できるように計画しています。虐待は職員の心身状態で発生しやすいと認識し、休憩時間や休日の完全取得、利用者や職員・職員同士の相性も見極めて担当やシフト作成に配慮しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度については管理者が職員に制度について話す機会があり、入居者それぞれの状況に応じてそれらを活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は契約に関する説明を行い、利用者やご家族の不安がないよう疑問点を尋ね、納得して頂けるよう説明をしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの要望を聞く機会は日常的にあり、ご家族との交流関係も連絡を取り合う事で築いています。それらの要望や意見を運営に活かし運営推進会議などで外部の方にも伝える機会があります。	運営推進会議に家族も出席し、意見を聴いています。普段は電話連絡を主としていますが、手紙の交信を好む家族にも対応しています。家族からは誕生日祝いの連絡やお菓子の差入れ相談などがあります。利用者の特別な変化や様子を、写真で報告することもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見や提案を言い易い現場環境を作っているため、それらを運営に反映しています。	ユニット会議の中で、職員の話に傾聴し、活発な意見が言えるような環境を整えています。職員が中心に、行事を立案しています。花見や、ハロウィン、バーベキューの他、ネパール人職員を中心としたクリスマス会なども行い他国のクリスマスを味わうなど、多岐に渡る意見を実行しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力や実績を評価し代表者に伝える機会があり、評価を元に交付金などで反映し職員のやりがいに繋がっていると思います。	半期ごとに職員の働きを評価し、通常のボーナス以外に介護職員処遇改善交付金を活用して特別ボーナスを支給し、モチベーションアップに繋がっています。夜勤専従者雇用を取り入れ多様な働き方ができるようにしています。休憩時間を確保し、休日もしっかり取得しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ベテラン職員が外国人スタッフに熱心に介護について学ぶ機会を設け働きながらトレーニングしています。	資格取得の為に研修参加は業務扱いとなり、経費・日当を支給しています。外国人研修生の資格取得支援として過去の教材を提供しています。管理者も職員から介護技術を学ぶなど、やる気向上に効果を上げています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	以前は交換研修などで同業者との交流する機会がありましたが、現状参加出来ていません。これから少しずつでも参加し、ネットワーク作りが出来るようになっていきたいと思っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居開始の段階で本人とのコミュニケーションを大切にしていることや、不安なことや要望を聞き取り安心して生活していけるよう良い関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始の段階で、ご家族とも、じっくりとお話しをして不安のないような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時のご家族との面談等から得た情報をもとに他に必要なサービスがある場合は出来る限り対応するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者が暮らしていく上で日常的なお手伝いをお願いし一方的な関係ではなく、共に暮らす一員としての関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要な場合はご家族にも協力をお願いし、共にご本人を支える関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にしている場所や人がいる場合はその関係が途切れないよう努めている。	日頃の言葉の端々から推察しています。掃除が得意な人、折り紙が得意な人。料理好きな人には現在できる範囲で手伝います。川崎大師まで参拝に案内したこともあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し職員が間に入りコミュニケーションをする事で孤立しないような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してもご本人やそのご家族からの要望がある場合は相談、支援を行うよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のコミュニケーションからその人その人の希望、意向を把握し、出来る限り対応できるよう努めています。	日常の会話の中で繰り返し出てくる言葉から思い出の場所や好きな物を把握しています。希望や意向等は、答えやすいように質問方法を工夫して聞き取っています。意思疎通が困難な利用者は家族やもとのケアマネジャーからの情報をもとに支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際に生活歴、生活環境、馴染みの暮らし方、サービス利用状況等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	行動記録、バイタルチェック表などの記録を通じて一人一人の現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族、訪問ドクターとのコミュニケーションから得た情報を活用しユニット会議で話し合い意見を吸い上げ介護計画に反映しています。	日々のモニタリングでもある「行動記録」を活用し、ユニット会議で意見を出し合っています。3ヶ月ごとにモニタリングを実施しています。「出来ることはさせてほしい」など家族の意向をプランに反映しています。健康面や、ADL(日常生活動作)など見えにくい精神面を重視したケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に行動記録を記入し、それを活用し職員間で情報共有に活用し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々生まれるニーズに対応できるよう職員間で話し合い、柔軟に支援できるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その人その人に応じた地域資源を把握し出来る限りそれを活用し豊かな生活がおくれるよう努めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望に添ったかかりつけ医を選択して頂き、訪問ドクターへの報告、相談をこまめに行い関係構築に努めています。	協力医療機関の医師が定期的な訪問のほか、体調の変化など緊急時やコロナ、インフルエンザのワクチン接種に往診対応しています。同医療機関の皮膚科、眼科、泌尿器科の外来受診には職員が同行しています。医療機関の協力を得ながら健康面や看取りを支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急連絡先である病院に適時連絡し対応の指示を受け都度受診できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院や定期受診している病院等に相談し情報の共有に努め、よい関係作りに努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期を迎える利用者については家族に連絡し事業所として出来る限りの対応をしています。	事業所では「看取り」を掲げていませんが、訪問医の提言で近年看取り介護を実施するに至っています。訪問医の助言・協力と看取り経験のあるベテラン職員のサポートで複数の看取りを経験しています。最期まで話し掛けを大切にし、利用者が苦しまない看取りケアに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時については消防訓練の際に講習をして頂き、適切な対応ができるよう実践力を身に付けています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間想定避難訓練を通じて全職員がその方法を知る機会を定期的に設けている。その際は地域の方にも告知しています。	6月、夜間を想定した避難訓練と消火訓練を実施しています。2月の設備点検の際に水消火器を使っての消火訓練を行っています。訓練の前にはチラシを配布して地域住民の参加を呼び掛けています。飲料水、食料品等を備蓄し、賞味期限を記載したリストで管理しています。	現在作成中のBCP策定の今期中完成を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人その人の人格や個性を受け入れ、尊厳を守るような言葉がけに配慮するよう心掛けています。	「日頃の心遣いが、人格やプライバシーを尊重すること」と考え支援に努めています。呼び掛けは名字に「さん」付けとし、職員間で利用者のケアについての話をする時は特定の言葉で表現し配慮しています。不穏時には個別に対応し、その人の人格を否定せず受け入れるように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が日常を過ごすうえでコミュニケーションを通じて発している希望や主張に耳を傾け自己決定できるよう支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者それぞれの生活リズムを大切にし出来る限り個々のペースで暮らせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴の際はご本人と一緒に部屋で洋服を選んだりし、その人の好みの恰好が出来るよう支援を行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の際は利用者の意見を取り入れメニュー通りではなく、時にはアレンジを加える事もある。片付けに意欲的な利用者には積極的に行って頂いている。	食材、献立は業者に委託し職員が味付けを工夫しながら調理しています。利用者の希望から、ラーメンパーティー、鍋パーティーなど食事レクリエーションを取り入れています。外国人職員の母国の料理を披露し国際色豊かなパーティーで盛り上がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量はチェック表を用いて把握し一人一人の状態に応じて対応できるよう支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い汚れや臭いが生じないように支援を行っている。ご自分で口腔ケアが行えない利用者にはそのお手伝いを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握しトイレで排泄が出来るよう支援を行っています。	食事やおやつの前、また排泄チェック表で間隔を確認しながら声掛け・誘導をしています。便秘の場合は5日を限度に薬を投与して排便コントロールをしています。夜間、居室のポータブルトイレに誘導することで寝具への失禁が無くなった改善例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘については飲食物での工夫やトイレに行った際に腹部マッサージを行いできる限りトイレでの排便ができるよう支援を行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を用いて衛生上の管理、個々に合わせた入浴ケアを行っている。	週2～3回、1日3人を目安に午前中入浴を実施しています。入浴拒否や体調が優れない利用者には担当職員や日にちを変えて対応しています。車いすの利用者など浴槽を跨げない人にはバス用ターンチェアを活用し、安全を考慮し2人介助で対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせて日中休息をして頂いたり、その人の生活リズムで就寝して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書はファイリングしており、すぐに確認できるような場所に保管しています。訪問ドクターと相談しその状況に合わせて薬の調整をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人1人に有する力を活かし役割をもって頂いたり、楽しめるようなことを提供したり張りのある生活を送って頂くよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望にそって外出できるよう、出来る限りの支援を行っています。ご家族との外出の支援も行っています。	感染症防止対策のため散歩は施設前の道を歩いています。その他、施設の広い中庭の散歩や桜を眺めながら気分転換をしています。バーベキューなど中庭でのイベントを積極的に催して閉塞感のない暮らしを支援しています。車で初詣や海軍道路へ花見ドライブをしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望により金銭の所持、買い物を楽しむ支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人、ご家族の希望がある場合は電話でのやり取りが出来るよう支援を行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは第一に衛生に気を配り、不快にならないような空間を保ち季節に応じた装飾を行い居心地よく過ごして頂けるよう心掛けています。	リビングは天井が高く、天窓から自然の採光があります。職員が見守る中、日中はほとんどの利用者がリビングで過ごしています。廊下の壁には誕生会や行事の写真、利用者の作品を飾っています。ベンチを設置した広い中庭を有効活用し散策やお茶、各種イベントを催して楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルを細かく分けて、利用者の関係性にも配慮したスペースを提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人やご家族の意向を取り入れ使い慣れた物や飾り付けをして居心地よく過ごせるよう工夫しています。	ドレッサーや仏壇、人形など使い慣れた家具や思い出の品を自由に持ち込めるように支援しています。退去者が置いていった家具も使用することができます。衣類を事務所で管理するなど認知症の症状を細やかに観察、確認しながら支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレは常時点灯、各所に表示を置くなどして、自立した生活を送れるよう支援しています。		

事業所名	フレンジィ都岡
ユニット名	2号館

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 2024/4/23	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	リネンを共有し実践につなげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	気候がいい日は散歩などをし地域とのつながりをもてるよう支援しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方からの入居の相談などで、認知症の方の理解や支援の方法をお話しして、入居に繋がらなくても、いつでも相談に乗りますとお伝えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、当ホームにて委員会の方々に入居者の状態やホームの雰囲気などを報告しサービスの向上に繋がっています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	旭区役所には手続きなどで度々足を運んでいます。その際にはケアサービスについての現状をお伝えし相談に乗って頂き良きアドバイスなどを頂く事もあり、協力関係を築き上げていると思います。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては定期的に委員会を開催し実際の事例を基に意見を頂いてケアに繋げています。職員研修も定期的に行い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待にあたる行為についても職員間で話し学ぶ機会は日常的にあり、虐待が見過ごされることがないように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度については管理者が職員に制度について話す機会があり、入居者それぞれの状況に応じてそれらを活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は契約に関する説明を行い、利用者やご家族の不安がないよう疑問点を尋ね、納得して頂けるよう説明をしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの要望を聞く機会は日常的にあり、ご家族との交流関係も連絡を取り合う事で築いています。それらの要望や意見を運営に活かし運営推進会議などで外部の方にも伝える機会があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見や提案を言い易い現場環境を作っているため、それらを運営に反映しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力や実績を評価し代表者に伝える機会があり、評価を元に交付金などで反映し職員のやりがいに繋がっていると思います。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ベテラン職員が外国人スタッフに熱心に介護について学ぶ機会を設け働きながらトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	以前は交換研修などで同業者との交流する機会がありましたが、現状参加出来ていません。これから少しずつでも参加し、ネットワーク作りが出来るようになっていきたいと思っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居開始の段階で本人とのコミュニケーションを大切にしていることや、不安な事や要望を聞き取り安心して生活していけるよう良い関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始の段階で、ご家族とも、じっくりとお話しをして不安のないような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時のご家族との面談等から得た情報をもとに他に必要なサービスがある場合は出来る限り対応するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者が暮らしていく上で日常のお手伝いをお願いし一方的な関係ではなく、共に暮らす一員としての関係性を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要な場合はご家族にも協力をお願いし、共にご本人を支える関係性を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にしている場所や人がいる場合はその関係が途切れないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し職員が間に入りコミュニケーションをする事で孤立しないような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してもご本人やそのご家族からの要望がある場合は相談、支援を行うよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のコミュニケーションからその人その人の希望、意向を把握し、出来る限り対応できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の台に生活歴、生活環境、馴染みの暮らし方、サービス利用状況等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	行動記録、バイタルチェック表などの記録を通じて一人一人の現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族、訪問ドクターとのコミュニケーションから得た情報を活用しユニット会議で話し合い意見を吸い上げ介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に行動記録を記入し、それを活用し職員間で情報共有に活用し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々生まれるニーズに対応できるよう職員間で話し合い、柔軟に支援できるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その人その人に応じた地域資源を把握し出来る限りそれを活用し豊かな生活がおくれるよう努めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望に添ったかかりつけ医を選択して頂き、訪問ドクターへの報告、相談をこまめに行い関係構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急連絡先である病院に適時連絡し対応の指示を受け都度受診できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院や定期受診している病院等に相談し情報の共有に努め、よい関係作りに努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期を迎える利用者については家族に連絡し事業所として出来る限りの対応をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時については消防訓練の際に講習をして頂き、適切な対応ができるよう実践力を身に付けています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間想定避難訓練を通じて全職員がその方法を知る機会を定期的に設けている。その際は地域の方にも告知しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人その人の人格や個性を受け入れ、尊厳を守るような言葉がけに配慮するよう心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が日常を過ごすうえでコミュニケーションを通じて発している希望や主張に耳を傾け自己決定できるよう支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者それぞれの生活リズムを大切にし出来る限り個々のペースで暮らせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴の際はご本人を一緒にお部屋で洋服を選んだりし、その人の好みの恰好が出来るよう支援を行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の際は利用者の意見を取り入れメニュー通りではなく、時にはアレンジを加える事もある。片付けに意欲的な利用者には積極亭に行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量はチェック表を用いて把握し一人一人の状態に応じて対応できるよう支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い汚れや臭いが生じないように支援を行っている。ご自分で口腔ケアが行えない利用者にはそのお手伝いを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握しトイレで排泄が出来るよう支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘については飲食物での工夫やトイレに行った際に腹部マッサージを行いできる限りトイレでの排便ができるよう支援を行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を用いて衛生上の管理、個々に合わせた入浴ケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせて日中休息をして頂いたり、その人の生活リズムで就寝して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書はファイリングしてあり、すぐに確認できるような場所に保管しています。訪問ドクターと相談しその状況に合わせて薬の調整をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人1人に有する力を活かし役割をもって頂いたり、楽しめるようなことを提供したり張りのある生活を送って頂くよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望にそって外出できるよう、出来る限りの支援を行っています。ご家族との外出の支援も行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望により金銭の所持、買い物を楽しむ支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人、ご家族の希望がある場合は電話でのやり取りが出来るよう支援を行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは第一に衛生に気を配り、不快にならないような空間を保ち季節に応じた装飾を行い居心地よく過ごして頂けるよう心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルを細かく分けて、利用者の関係性にも配慮したスペースを提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人やご家族の意向を取り入れ使い慣れた物や飾り付けをして居心地よく過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレは常時点灯、各所に表示を置くなどして、自立した生活を送れるよう支援しています。		

2023年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム フレンドィ都岡

作成日： 令和 6年 4月 18日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	自立度の高い入居者の割合が多くなり、それに伴い精神面でのケアが多くなりました。精神面でのケアは中々難しくスタッフも苦慮している場面があります。	入居者がストレスなく日常生活を送れるように精神面でのケアをチームとしてフォローしあい支援できるようになる。	外国人スタッフも多い中、ベテランスタッフが中心となり、スタッフのストレスも軽減できるようにしていく。	12ヶ月
2	4	地域との交流がもてるようなイベントが出来ていない。	地域の方々も呼べるようなイベントを開催したい。	ボランティアさんも含め、地域の方々も呼べるイベントを開催します。	12ヶ月
3	14	自施設での研修は少しずつ出来るようになってきたが、自施設外での研修ができていない。	施設外での研修が出来るようにしていきたい。	以前していた交換研修があれば参加していく。	12ヶ月
4	10	ご家族との交流が少ない。	ご家族との交流を増やしていきたい。	何かあった時以外の連絡だけではなく、普段どのように日常を過ごされているか少しずつでも伝えていく。	12ヶ月
5	23	入居者の外出の機会が少ない。	大きなイベント以外に入居者個々での外出イベントができるようにしたい。	お誕生日の入居者を居室担当がイベントを企画し外出の機会を増やす。	12ヶ月